

## 大阪府岸和田市神於山こうのやまにおける自然再生の取組について

- ◆ 神於山は岸和田市の都市近郊に位置する里山であり、地域のシンボリックな存在  
しかし、近年、マツクイムシ被害の発生や人との関わりの減少による管理放棄等によりモウソウチクが繁茂拡大するなど里山環境が悪化
  - ◆ 大阪府岸和田市が事務局となり、平成15年9月に「神於山保全活用推進協議会」を設置。平成16年5月に自然再生推進法に基づく自然再生協議会に移行。  
平成16年10月に「神於山地区自然再生全体構想」を策定。平成17年6月に大阪府及び神於山保全くらぶ(ボランティア団体)が作成した「自然再生事業実施計画」を了承
  - ◆ 大阪府において、平成16年度より区域内の水土保全機能が低下した土砂流出防備保安林を対象に、自然再生全体構想との整合を図りつつ、治山事業(林野庁補助：生活環境保全林整備事業)を実施  
また、岸和田市において、平成15年度より緊急雇用対策事業を活用して、タケの除去作業や植生調査を実施
  - ◆ 「神於山保全くらぶ」による保全活動(タケの除去等)、「大阪府漁連青年部」「シャープ株式会社」による森づくり活動、「春木川をよくする市民の会」による定期的な清掃活動が実施されるなど、多様な主体が保全活動に関与
- 第1回神於山保全活用推進協議会(平成16年5月25日)
- ・ 全国で5番目の自然再生協議会として位置づけ
  - ・ 部会にて自然再生全体構想について検討【3回開催】
- 第2、3回神於山保全活用推進協議会(平成16年7月16日、10月21日)
- ・ 自然再生全体構想案の討議・了承
  - ・ 全体構想に基づき自然再生事業実施計画案について協議【4回開催】
- 第4回神於山保全活用推進協議会(平成17年6月1日)
- ・ 大阪府及びボランティア団体による自然再生事業実施計画案の討議・了承
- 第5～7回神於山保全活用推進協議会(平成17年8月29日、10月26日、3月8日)
- ・ 保全事業計画、神於山まつり、神於山再生シンポジウム実施計画について討議・了承
- H18年度第1回神於山保全活用推進協議会(平成18年6月29日)
- ・ 17年度事業報告及び18年度事業計画等について討議・了承

## 「神於山地区自然再生全体構想」について

- ◆ 自然再生の対象区域として、岸和田市神於山全域(約180ha)が対象
  - ◆ 神於山における課題として、「放置竹林の拡大」「防災や水源かん養機能の低下」「歴史・文化的側面の希薄化」を指摘
  - ◆ 自然再生理念として「森・川・海をつながり」「人と自然・人と人とのつながり」「里山とまちとのつながり」の3つを提示
  - ◆ 自然再生目標のうち長期的目標(100年後の目標)として「里山の再生」を掲げ、「自然植生の保全と回復」「活力ある森の再生」「市民が親しめる自然の再生」の3つの方向性を提示
  - ◆ 当面の目標(今後10年で取り組むべき目標)として「竹林の適正な整備」を掲げ、「竹林の拡大防止」「竹林の適正な管理」「タケの利活用の推進」の3つの方向性を提示
- 

## 「神於山地区生活環境保全林自然再生事業実施計画」について

- ◆ 対象区域は、神於山のうち岸和田市有林を中心とした37ha(保安林)
- ◆ 実施主体は、大阪府泉州農と緑の総合事務所、神於山保全くらぶ
- ◆ 基本方針は、「地域住民やボランティアが維持管理可能な活力ある森林再生」
- ◆ 具体的な事業内容
  - ① 荒廃森林のタイプ別整備
    - ・ タケ優先林(約7ha)：林種転換による目標林への誘導
    - ・ クズやササのヤブ状地(約3ha)：林種転換による目標林への誘導
    - ・ 荒廃密生林(約18ha)：本数密度調整により健全な林に誘導
    - ・ 自然誘導林(約7ha)：現況林を維持
  - ② 付帯施設の設置
    - ・ 森林の維持・管理を行う作業歩道などの付帯施設を含めた施設整備
  - ③ モニタリング
    - ・ 再生された自然環境のモニタリング調査
    - ・ タケの利活用による自然再生モニタリング調査